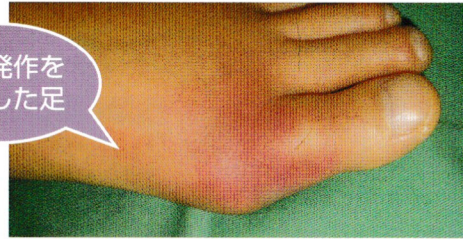


2 高尿酸血症と痛風の関係

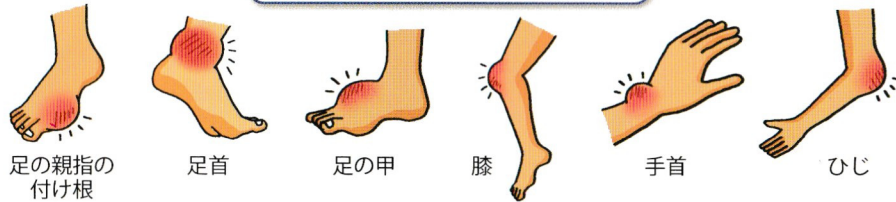
痛風ってどんな病気？

痛風発作は痛風関節炎ともいわれ、尿酸の結晶が関節に沈着することで起こります。発作はある日突然起こり、腫れと激痛を伴うのが特徴です。場所は足の親指の付け根が最も多く、痛むのは普通一度に1カ所だけです。発作は1～2週間程度で治まりますが、**根本にある高尿酸血症を放っておくと発作を繰り返します。**

痛風発作を起こした足



関節炎の起こりやすい場所



痛風になりやすい人は・・・

痛風患者さんの95%が男性で、元気で仕事も遊びもバリバリこなしているタイプの人が多いのです。



激しいスポーツを好む



仕事量の熱血漢



特にビールが大好き



早食い・大食い

太っている



まるで自分!?



痛風の起こるしくみ

尿酸値が7.0mg/dLを超えた状態が長く続くと、血液に溶けきらなかった尿酸が結晶化して、関節に沈着します。**ストレスや激しい運動、尿酸値の急激な変動など何らかのきっかけで、沈着していた尿酸の結晶が関節の中ではがれ落ちると、白血球がそれを排除しようと格闘します。その結果、関節の炎症（痛風発作）が起きるのです。**



高尿酸血症が続くと、関節などに積み木のように尿酸の結晶が積み上がります。そして何らかのきっかけで崩れ落ちてしまった状態が、痛風発作です。高尿酸血症を治療しない限り、これを繰り返してしまいます。

ストレス

尿酸値の急激な変動

激しい運動

